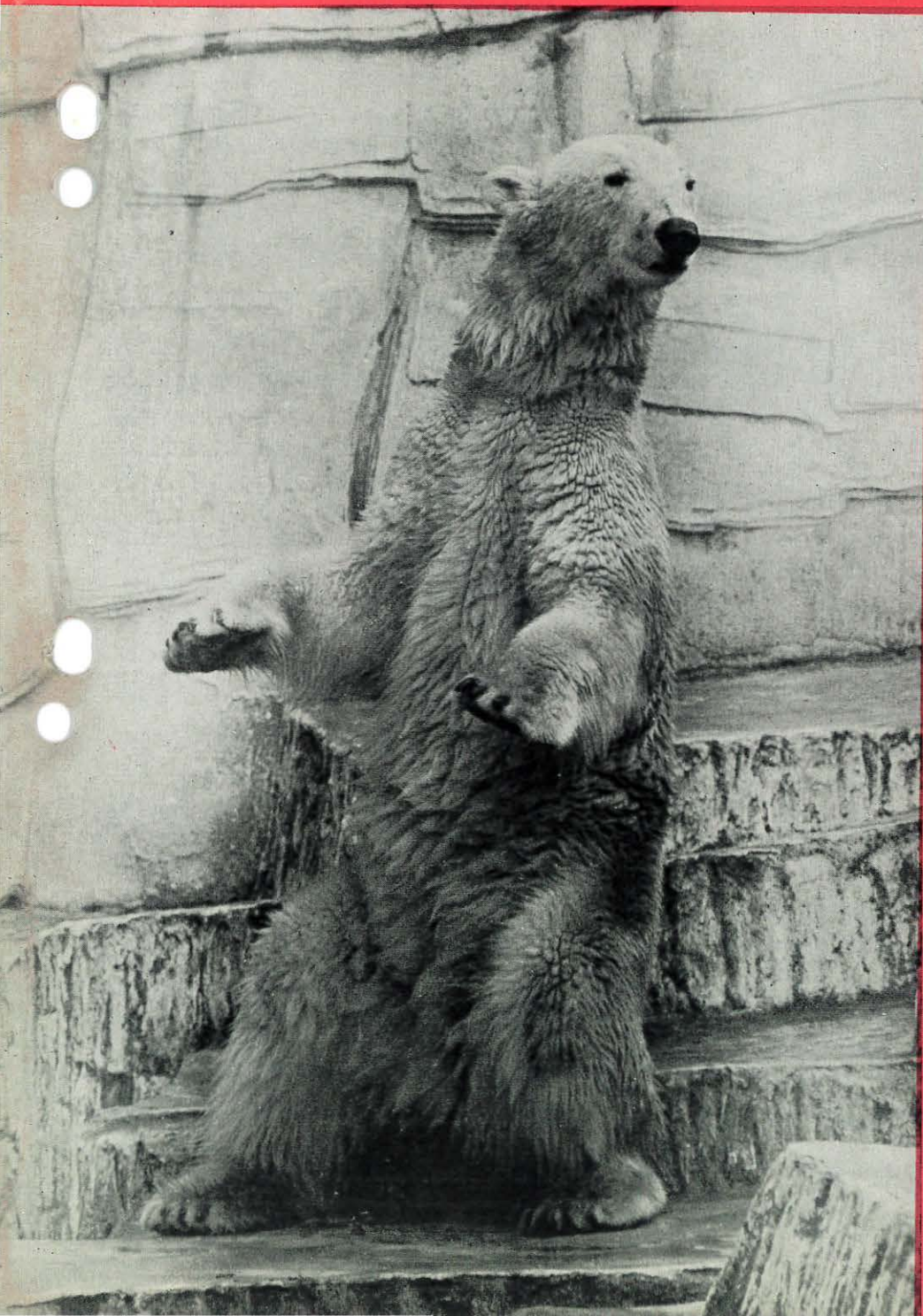


なきごえ



1969

2

大阪市
天王寺動物園協会

動物の紹介 [第28回]

「シロムネオオハシ」



オオハシの仲間は大型10種、小型30種と40種類と分けられています。

この仲間は写真のように身体の半分もあるバナナ状の巨大な嘴を持っているのを特徴として

います。又この仲間は目の周囲から首の前面にかけて、それぞれとても美しい鮮やかな色彩があります。私はこの美しい色彩を見るたびにふと次のようなことを想像します。

ガラパゴス島のアシカは何千年もの昔から波乗り遊びの楽しさを知っていました。それが今人間の社会で大流行をしています。このオオハシ科の鳥達は奥地で夫々の種を現わすために見ごとな、さまざまな色彩によって装をこらしています。この色彩が最近の女性のお化粧の中に随分と取り入れられているのではないかと思はれるのです。特にシロムネオオハシを見るとその感じを深くします。どうか動物園に来られたら、小鳥舎に居るこの鳥を観察して下さい。

生息地帯は中南米で熱帯林の高い樹上に生活しています。朝夕には集合して大声で鳴くそうです。その声は丸くすき通った声ですから、余りそうぞうしくない合唱となることでしょう。この大きな嘴は過大進化だと云われていますが、彼等の日常の食生活には必要欠くことの出来ない道具でしょう。果実を最も好む彼らは巨大な嘴の縁で上手

に砕いて器用に啄みます。又昆虫や鳥の雛も食べると云われますから相当な悪食家です。尚トカゲなども食べるようですから、こんなときにはこの巨大な嘴は大変都合のよい、ナイフ、フォークの役目を果しています。

動物園では季節の果物やパン、甘藷、卵(煮ヌキ)などを主に与えています。又チーズが大変好きなので与えながら観察して見ました。先づ大きな嘴で投げたチーズを上手に受け止めます。その瞬間針のように細い舌がするすると伸びて来て、このチーズが食べられるかどうかを敏速に調べます。そして食べられることを確認するとチーズをほり上げるようにして大きな嘴ののど深くにおくり込みます。

以上のようなので、この鳥は人に非常によく馴れます。鳥小屋に近づくと愛きょうのある動作でよって来て興味一杯の眼ざしで、私達の仕ぐさをじっと見守ります。

飼育にもよく順応して比較的丈夫な鳥です。

卵は白色で2~4個産卵、雛は16日ぐらいでふ化するのですが動物園では未だふ化には成功していません。

(松岡 恵爾)

なきごえ 2月号もくじ

動物の紹介(シロムネオオハシ).....	2
コンタクトレンズを付ける ヌプリちゃん.....	3
動物園グラフ.....	4, 5
ペットを訪ねて(ヘビの赤ちゃん誕生(4)).....	6
動物園ニュース.....	7

コンタクトレンズを 付けるヌプリちゃん

12月号でご紹介しましたヌプリちゃんの手術の結果は、交通局病院の松下先生はじめ眼科の皆様方の暖かい手当てにより大変よくなりました。

何よりのことは白内障の発病当時 500g も体重が減って 3.8Kg になって逆毛も立って、いかにも病人らしかったのですが11月20日の手術が終ったからはメキメキと体重が増えて12月15日には 5Kg に成長して毛並も立派になって来ました。

しかし、どうしたことか近くのものにつき当るので松下先生に眼の機能検査をしていただきました。

「眼圧、眼底の状態は正常」ですから機能は充分に働いていることとなります。使わない手や足が細って行くようなヌプリちゃんの眼球内の組織には萎縮という状態は全く見られません。

これは水晶体を取りだすと水晶体そのものが凸レンズですから、人の場合でも遠視になって近くのもの像が眼底でうまく結ばないからです。ヌプリちゃんの水晶体は人間の水晶体より厚味が約5倍もありましたからヌプリちゃんの遠視は人の場合とは想像も付かないような強度の遠視になっているので焦点が全く合わないためなのです。

このことを聞かれた交通局病院出入の東洋コンタクトレンズK.K.の田中恭社長から「コンタクトレンズを」寄贈しましょう」との申出がありました。そのプレゼントの日は昨年12月24日のクリスマスイブの日に決り特大のレンズが3個贈られましたが残念なことにこのレンズはヌプリちゃんに



うまく合いませんでした。そこで田中社長は特別製のものを造ることをお約束して下さいまして、名古屋の本社で早速製作に着手され、1月27日待望のレンズが出来上り再び装着して見ました。全体的には申分がない出来ばえでしたが、ほんの少し角度が深いので眼球の先端のところにはほんの少し気泡が出来てこれがスリガラスの作用をしてみえませんでした。

田中社長は「もう一度造りなおしだ」と力強く云って下さいました。こんなにまでしていただくヌプリは全く幸福なカンガルーです。

ヌプリはカンガルーですからレンズ合せもその都度麻酔をかけて寝むらせないと、うまくいきません。こんな面倒なことを何回も何回も繰返して立派なレンズをと頑張って下さる東洋コンタクトレンズの皆様方に深く感謝します。

皆様方の御厚意によってこの春には上手に飛び回るヌプリの姿が園内で見られるようになるでしょう。

ヌプリは1月27日の現在で7Kgに成長しました。

皆様方もどうか何時迄もヌプリに温い声援をお願い致します。(松岡 恵爾)

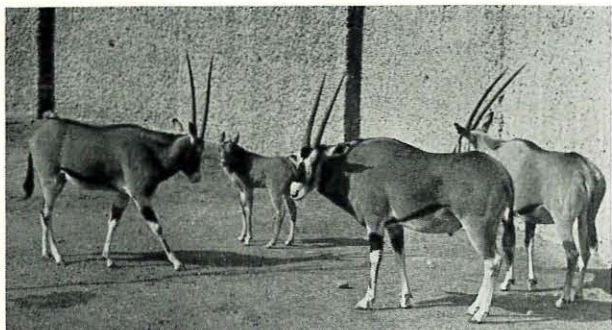
表紙の写真説明

「シロクマ」
冬に強い動物で、毎日プールで泳いでいます。食べものをねだって写真のように愛きょうをふりまっています。

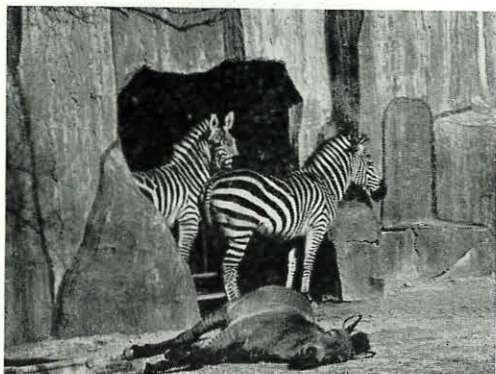
動物園グラフ

”春をまつ動物たち”

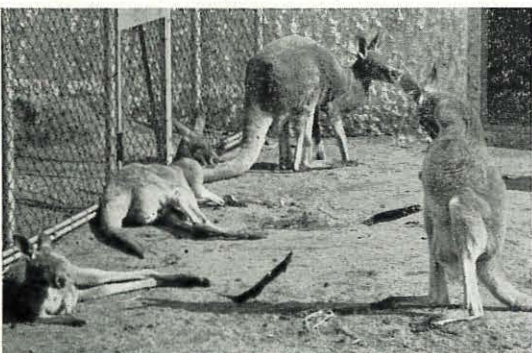
冬のある日「入園者もまばらな動物園での動物たちのスナップ」寒い北風をさけて日だまりで、思い思いにひなたぼっこをする動物たち。もうすぐそこに春がきています。



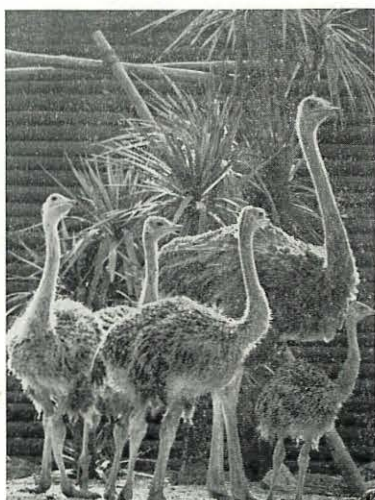
↑ オリックス
1月に赤ちゃんも生まれて、オリックスの家族もふえました。(カモシカ園)



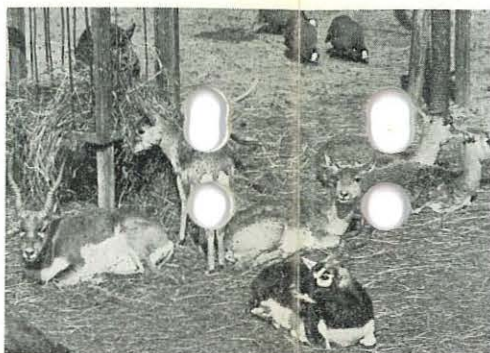
← シマウマ
強い風が大きらい。ホープラ(トカラウマとシマウマの雑種)もきもちよさそうにひるね。(シマウマ舎)



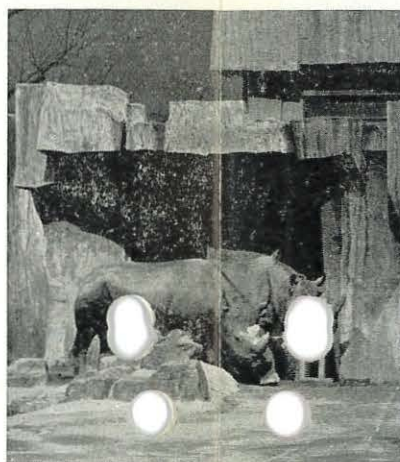
↑ カンガルー
南方育ちのカンガルーも陽だまりが大好き5月になれば袋の赤ちゃんも顔を出すでしょう。(カンガルー舎)



↑ ダチョウ
淡い光にダチョウの家族の首も光ってみえます。(走鳥舎)



→ クロカモシカ
美しく立派な角をもったカモシカ(インド産)です。一群で一休み。(カモシカ園)



↑ クロサイ
アフリカ生まれのサイ夫婦は冬でも大変元気。赤ちゃんはまだかなあ。(サイ舎)

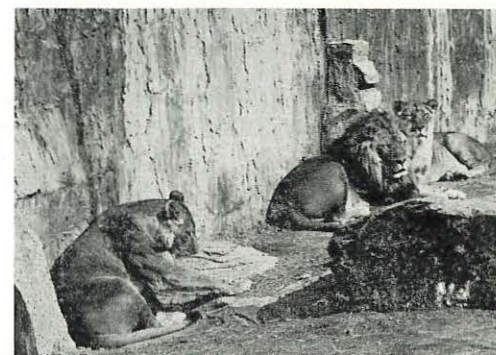


→ マレーグマ
これはいい気持ちだあ! とばかり大の字になって陽なたぼっこ。(クマ舎)

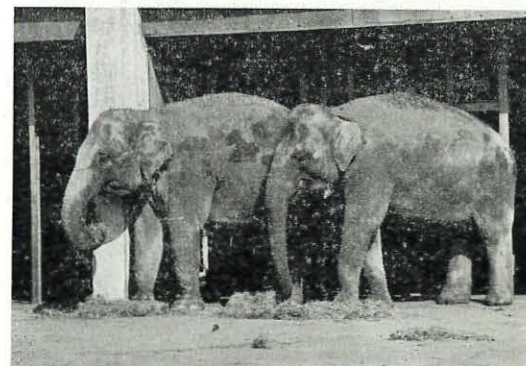
→ ライオン
陽だまりでのんびりひるね。(ライオン放飼場)



↑ ニホングマ
ああ! と大あくび。動物園にいると冬ごりの必要はありません。(クマ舎)



↑ ゴリラ
「外は寒いかなあ!」と室内運動場から外をのぞいてみる。(ゴリラ舎)



↑ インドゾウ
入園者のお相手もしなくていいのでのんびり干草を食べるとしよう。(ゾウ舎) (写真 樽本 勲)

1月動物園日記

1日。お天気は上々ですが、寒波がおしよせ、お正月3カ日は入園者は例年より少ないようでした。エトに因む”世界のトリのおもちゃ展”が15日まではじまりました。
○恒例の雑者が今年のあたり年のニワトリたちにふるまわれ、特別天然記念物のオナガドリも人気を集めました。
2日 今年5月に出産予定のキリンが流産してしまいました。初産のことであり、ここ2~3日の急激な冷え込みが原因と思われます。

5日 流産したキリンは後産が排出されず、元気、食欲がなくなりましたので、徹夜の看病が続けられています。
10日 キリンは立ちばれがして足にむくみがきて一時は大変危険な状態でしたが、ようやく病の峠をこし回復に向いホッとしました。
11日 オリックスが産産しました。おすで親が大変よくめんどろをみています。
12日 トピカモシカが産産しました。
15日 ライオンの赤ちゃんが生まれました。親につけて育てていますが、この親は途中でよく授乳を中止するので、注

意しています。
18日 仮設の馬舎ができましたのでトカラウマ2頭とニホンウマ1頭を移して展示しました。
21日 ヌートリアが死にました。
23日 カバの出産が間近かなので、産室の準備をしました。シュバシコウの巣に、柳の小枝などの巣材を大量に入れて、営巣の準備をしてやりました。
24日 入園して10数年の特別天然記念物のシロヘビが死にました。
25日 先日生まれたトピカモシカの赤ちゃんは急性の肺炎で惜

しくも死にました。
26日 トピカモシカのめすは腰部に腫れものができたので治療してやりました。
27日 カンガルーのスプリちゃんにコンタクトレンズを装着するために病院に行きました。
28日 カバが産産しました。めすの赤ちゃんが元気でしたが親が初産で大変興奮して赤ちゃんをケガさせましたので、分離して人工哺育しましたが、30日に死亡しました。
30日 老令のエミューは電気マットをしいてやり、毎日差餌をして大事に育てています。

ペットを訪ねて

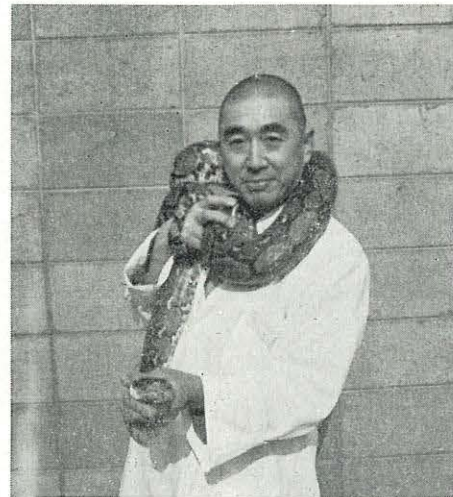
ヘビの赤ちゃん誕生 (4)

大阪府守口市梅園町56

伊丹 啓祐 さん

ヘビの飼育法について

蛇は冷血動物ですから、犬や猫、人間のようにしばしば食事をしなくてもよく、たゞ体の運動に必要なエネルギーを得るだけの栄養があればよろしいようで、一回食事をすれば、1カ月や2カ月しなくても充分に健康な生活が出来ます。例えば青大将について申しますと、一年間のうち、冬眠期間が12月～4月の5カ月間、あとの7カ月の内脱皮を4回ぐらいするとして、この脱皮前後、通算15日位、食事をしませんので4回で2カ月間食べません。差引き、あとの5カ月間に何回か食事をする訳で、大きな鼠ですと完全に消化するまで約10日はかかりますから、1.5米位の青大将でも年間、鼠の10匹食べるかどうかという位少食です。私の所の元禄など1回マウスを食べれば、2カ月位食べない時がありますが、それでも色はツヤツヤとすこぶる元気です。



それから、雌では産前産后通算20日以上も食事はしません。つまり色々先様にご都合があって食事をしないのですから、餌をやったが食べないからといって口をこじあけむりやり食物を押し込む、いわゆる強制給餌は絶対にさげなければなりません。この強制給餌は必ずといってよい程死を招く直接原因となります。ヘビが粘液便を排泄しますと症状はかなり悪化しています。もし、これに強制給餌しますと翌日にはさつとあの世行です。話が前後して申訳ありませんが、ペットとしての飼主に対する反応は、犬猫のように敏感ではありませんが、それでも根気よく愛情こめて世話をしているうちに飼主を見わけたり餌をねだったりするも

のが出てきます。現に私が飼っている6匹のヤマカガシと、青大将はいずれもよく慣れて私が近よると「早く餌を呉れ」と云わん許りに首を上下に振ってさいそくします。こうなれば、全くかわいいもので毎日毎日が楽しみです。ここで注意しなければいけない事は、調子にのって餌を多く与えないことです。一日で消化するようにほんの少しづつ(小指の先位)にしておきます。毎日、餌を与える様にして、出来得る限り有効に接触回数を多くすることが飼慣らす秘訣です。

こうして細かく観察していると、食事をしなくなってもハハ脱皮前兆だとか、病気だなどという事が判るようになります。又、食事を終ったヘビはそれが消化され排便するまでは絶対にさわってはなりません。もし乱暴につかんだりしますと、彼らは驚いて折角食べたものを吐出し二度と食事をせぬ様な事態が起ります。又、彼はあまりいじられるのは好みませんから余程慣れるまでは出来るだけそっとしておいてやりませぬと彼の方から近づいて来てこちらの差出す手にのぼってきたり、甘えてかみついできたりします。こんな時にもせいぜいのどの下をなでてやる程度にしておきます。

さて、これはヘビに限らず一般動物についても云える事ですが、野生のものを捕えてきて小さな箱に入れたり、オリに入れたりしますと、環境の急変からとかく食慾がなくなったり、病気になるります。しかし、ヤマカガシで2～3日、青大将で1週間もすれば落ち着いてきますからその時になってから少しづつ餌を与えます。但し、人が居ると食べませんから布で覆うなり、又、夜ねる前にやります。食べないからと心配はいりません。5月は脱皮期ですからたまたま、それに当っておれば当然食慾はないのですからしばらく様子を伺ってみます。次は温度ですが、次号でお話し致します。 (3月号に続く) (中川 道朗)

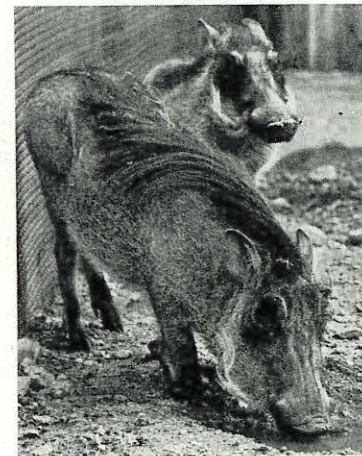
動物園ニュース

☆元気に遊ぶヒグマ君

これまで大きなおすのヒグマ1頭だつたヒグマ舎に、このほどかわいいヒグマの子が2頭お目見得しました。このため、部屋の都合で大きなヒグマは他の動物園に行くことになり、出発しました。ヒグマの子2頭は大変元気で、可愛いしぐさで写真のようにすもうをとつたりしています。春には人気を集めるでしょう。



☆イボイノシシ入園



イボイノシシはアフリカの草原に家族数頭ですんでいます。顔にみにくいいぼがあり牙も上にまるとつき出てくるのでこの名があります。日本の動物園でも多くかわれて時に繁殖しています。バク舎のとなり元気に走りまわっています。

☆カバの出産

カバのお産は戦後天王寺動物園では初めてのことでした。最近まで、めすが1頭しかいなかったのです。1昨年11月新しいカバ舎が建設され、翌年にはおすのカバも入園して赤ちゃんが生まれる可能性ができました。おすの方が気が荒く約4カ月間のお見合いの後、一しょにしましたところ、うまくいき妊娠しました。

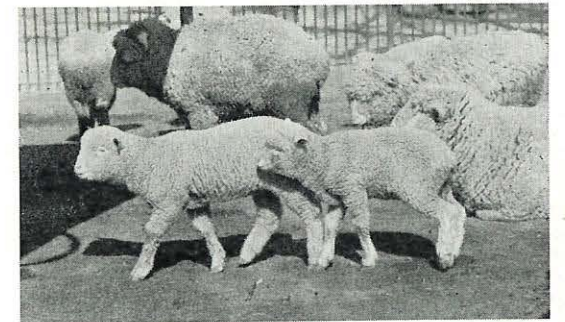
カバの妊娠期間は約240日ですから今年2月5～6日頃が予定日でした。結局予定より少し早く237日目に出産しました。めすは老令のうえ初産なので、心配していましたが、安産で約20分で分娩がおわりました。しかし、その直後やはり大変興奮して赤ちゃんに牙をかけて大き



な傷を与えてしまいました。そこでしかたなく分離して人工哺乳することにしましたが、やはり初乳を飲んでいないので、惜しくも3日目に死亡してしまいました。分娩後10日あまりで再び発情し交尾しましたので、今年の10月頃には又赤ちゃんを産む予定です。今度こそはうまく育ててカバ舎もにぎやかにしたいと思います。

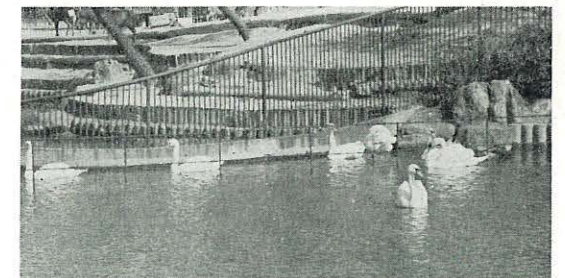
☆メンヨウの赤ちゃん

毎年12月から1月にかけてはメンヨウの赤ちゃんが生まれます。今年も4頭の赤ちゃんが生まれています。生まれるとすぐ尾を切つて体をととのえます。寒風にもめげずどんどん大きくなり今が可愛いさかりです。南園シカ舎の隣りにいます。



☆賑やかになった日本庭の池

南園の日本庭の池には1番のハクチョウがいましたがこのほど大阪城から9羽のハクチョウが預けられてきましたので大変にぎやかになりました。このハクチョウは老人クラブが大阪市に寄贈したもので、静かに泳ぐハクチョウの姿は優美で、入園者を喜ばせるでしょう。



(写真と文 樽本 勲)

先生！ 運動用具はそろっておりますでしょうか？

発育ざかりの現代っ子に必要な、とび箱、鉄棒など、情操教育と体力向上の手助けをする、数々の運動用具は、そろってお

りますでしょうか、安全性をモットーとし、運動器具の製作・設置をしているのが、長い歴史を誇る堺の木下製作所です。



創業・明治37年 文部省指定工場

株式会社 木下製作所

大阪府堺市鳳中町2丁目41

TEL 0722 (62) 0341・0596

おしゃれ仲間の合ことば ミテケ・テケミ を着よう！



あっちの友達、こっちの友達

みんな「ミテケ・テケミ」を着ています。

色がすっごくきれいです。

あなたも「ミテケテケミ」で
おしゃれをしてみましょう。

仲間の合ことば

思いっきり、遊べる服、

内外の子供服「ミテケ・テケミ」を着よう！！



肌着から洋服まで

シルバークロス

内外衣料製品株式会社